



レンズ AF-S DXズームニッコールED18〜70ミリF3.5〜4.5G (IF) (換算36ミリ) モード 絞り優先AE (F11) +/- なし WB 晴天 感度 ISO100 機材 C-PLフィルター、三脚使用 撮影地 中央アルプス千畳敷カール(長野県) 8月上旬

絞り込んでパンフォーカス

岩峰が夏空に映える宝剣岳をコバイケイソウの群落を前景にして撮影した。広角〜標準レンズで山を風景的にとらえる場合、前景から背景までピントが合うようにしたい。このようなパンフォーカス表現とするには絞りを絞り込むことが必要だ。APS-C サイズのデジカメでは F8 もしくは F11 くらいが目安となる。



雄大な高層湿原を立体感を活かして狙う

どこまでも広々とした湿原が広がる弥陀ヶ原。これを超広角レンズで広くとらえても風景の雄大さは伝わりづらい。広いものを広く撮っても写真では小さくしか写らないからだ。むしろ前景となる池塘に近づき、背景に山並みを配することで奥行き感を活かしたい。さらに順光ではなく、朝の斜光を選ぶことで立体感を引き出せる。

レンズ AF-S VRズームニッコール24〜120ミリF3.5〜5.6G (換算42ミリ) モード 絞り優先AE (F11) +/- +1/3EV WB 晴天 感度 ISO200 機材 C-PLフィルター、三脚使用 撮影地 北アルプス立山・弥陀ヶ原(富山県) 7月下旬



レンズ タムロン28〜300ミリF3.5〜6.3 (換算57ミリ) モード 絞り優先AE (F8) +/- +2/3EV WB 晴天 感度 ISO100 機材 三脚使用 撮影地 北アルプス穂高岳(長野・岐阜) 8月下旬

逆光で輝く雲海を狙う

朝の逆光に輝く雲海を常念岳のシルエットを活かして狙ってみた。雲海そのものは平面的な被写体なので、形のよい山をワンポイントに入れると奥行き感や雄大さを引き出せる。また気温の上昇と共に雲海はもくもくと成長を始める。山々を隠し始める前の午前中がシャッターチャンスである。

山

Mountain

高山植物が咲き誇り、朝夕にはダイナミックな景観を楽しむ夏山。山岳では自分の足だけが移動手段ゆえ、余裕を持った行動が欠かせない。撮影機材は少なめにし、早めの行動を心がけよう。特に朝夕の赤色に染まる山並みや空は見逃せない被写体である。遅くとも日の出30分前には現場に到着して撮影に臨みたい。

夜明け空のグラデーション、谷を埋め尽くす大雲海、モルゲンロートに染まる山々など被写体は多い。夏山風景を臨場豊かにとらえるには朝の斜光がお勧めである。昼のトップライトでは影がなく平面的になってしまし、逆光では山がシルエットになりがちである。さらに前景として高山植物を大きくとらえることで雄大なお花畑のイメージを引き出せる。そのためには、可能な限り被写体に近づくことが大切だ。